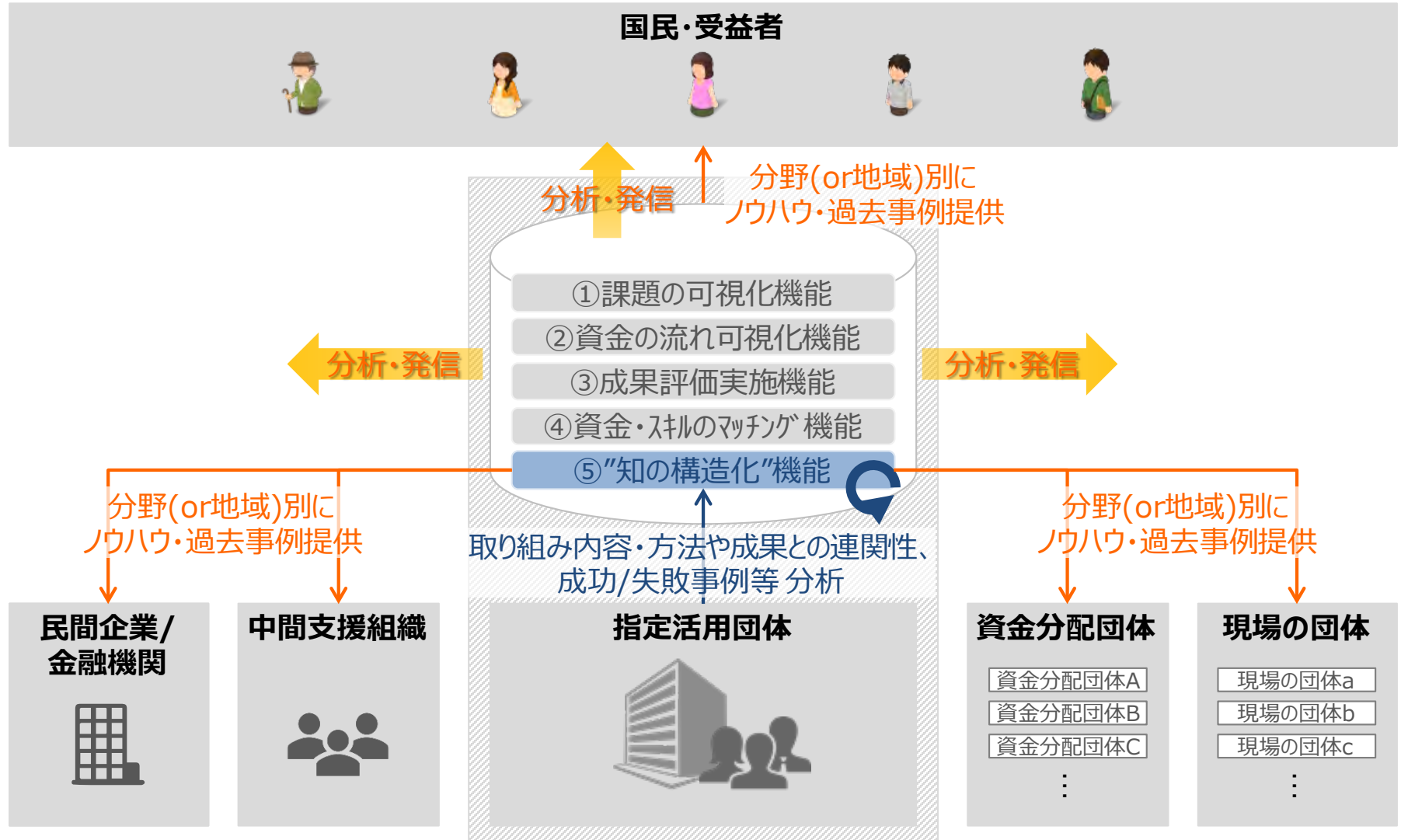


## 2. 各機能の具体的なイメージ (3)社会課題解決の仕組み全体の発展段階

→ : Input  
→ : Output

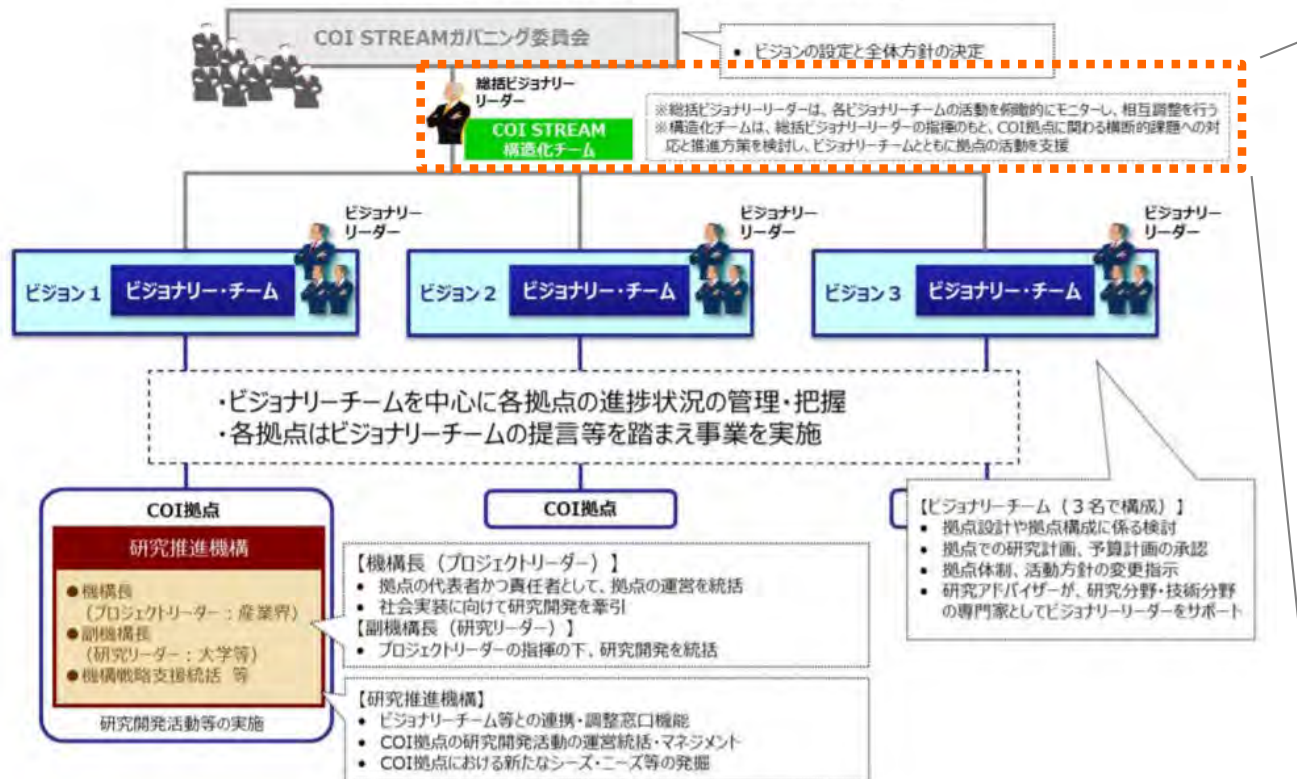
①～④の機能を通して蓄積したデータを分析し、社会課題解決の取り組みに役立つ知恵として各ステークホルダーへ発信、日本社会における社会課題解決の仕組み全体の発展に貢献する。



## 2. 各機能の具体的なイメージ 《参考事例》COIプログラムの推進体制

センター・オブ・イノベーション(COI)プログラムでは、チーム間の相互の連携調整や各チームの活動支援を行う「構造化チーム」が各拠点の活動状況の集約・分析と各チームへの情報連携を担っている。

### COI STREAMの進め方（体制）



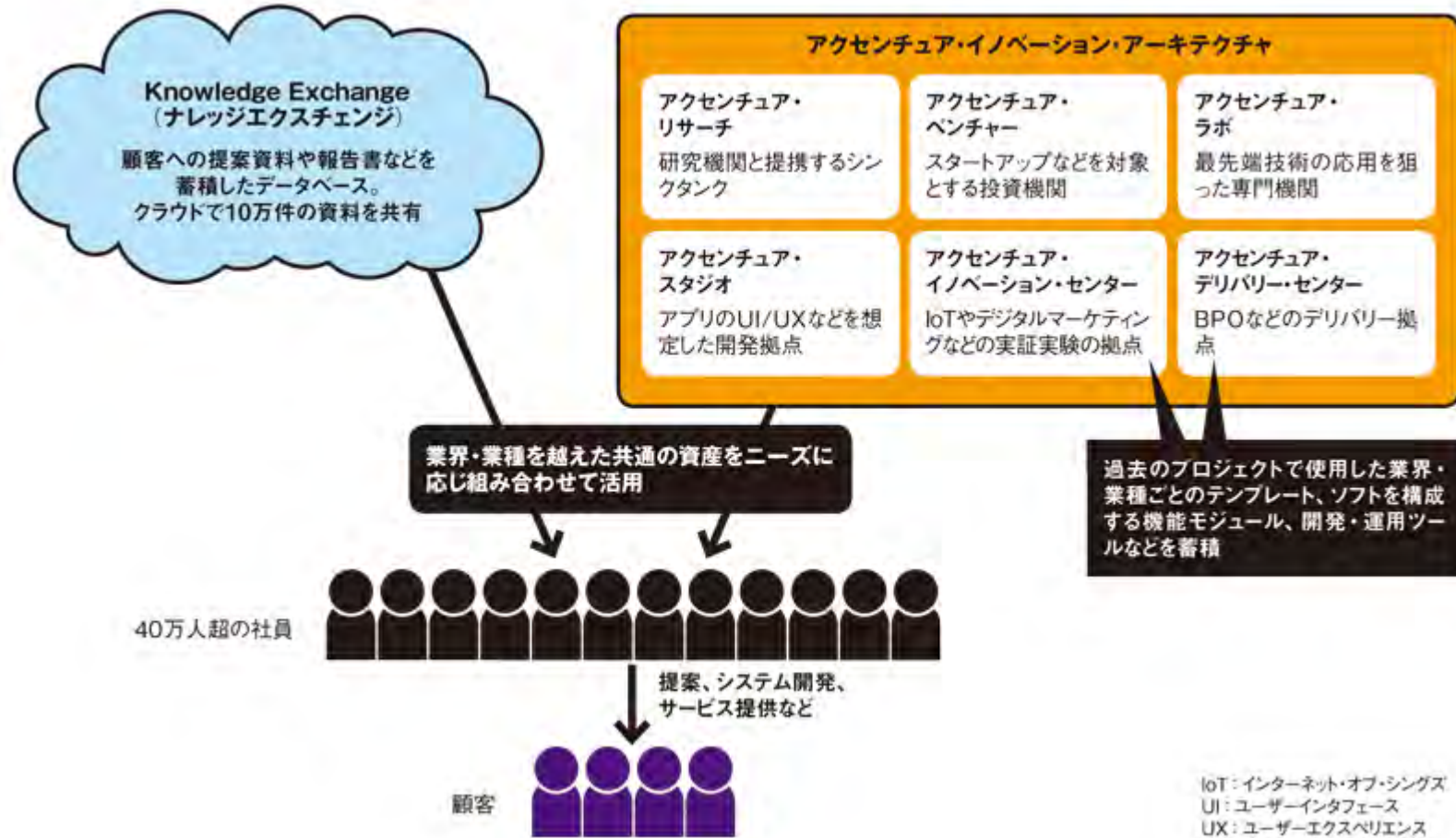
### 【構造化チームのミッション】

- 新たな将来ビジョン、革新的課題候補の抽出
- **各拠点の活動状況の集約・分析、活動の見える化**  
(Webベースでのデータベース構築)  
→ **ビジョナリーチームとの共有**
- 拠点のパフォーマンス評価のための指標抽出
- 各ビジョン、拠点間の連携の可能性抽出
- その他、ビジョン間、COI拠点間で共通する問題等について検討

休眠預金活用の枠組みにおいては、社会課題解決の取り組み全体を俯瞰し、活動に役立つ知見を発信していく基盤として、システムを効果的に活用してはどうか

## 2. 各機能の具体的なイメージ 《参考事例》Accenture社内のデータベース

アクセントゥアでは、過去のプロジェクトで使われた資料を蓄積するデータベースを保有。グローバルの先行事例や過去のプロジェクトで得られた知見等の共有・活用が可能な環境を整備している。



**休眠預金活用の枠組みにおいては、過去の取り組みから得られた知見やノウハウを、制度内部に閉じず社会全体に発信していく機能を構築することが必要ではないか**

### 3. 今後ICTの仕組みに求められるポイント

実際に活用され、制度自体の発展に合わせて進化していくICTの仕組みとするためには、下記のポイントをおさえることが肝要と考える。

#### 双方向性

- システム利用者間の**双方向のコミュニケーション**を可能に

#### 拡張性

- アジャイル方式の開発で、ユーザーの要求に合わせて**柔軟に・迅速に機能を拡張**
- オープンソースの活用で、様々な要件に応じた**カスタマイズ**を実現

#### 軽さ

- クラウドの活用で、**動作が軽く、安価なシステム**を実現
- また、**いつでもどこからでもアクセス可能**に

#### アクティブさ

- SNS等との連携・活用により、ユーザーの**能動的な発信**を活発化